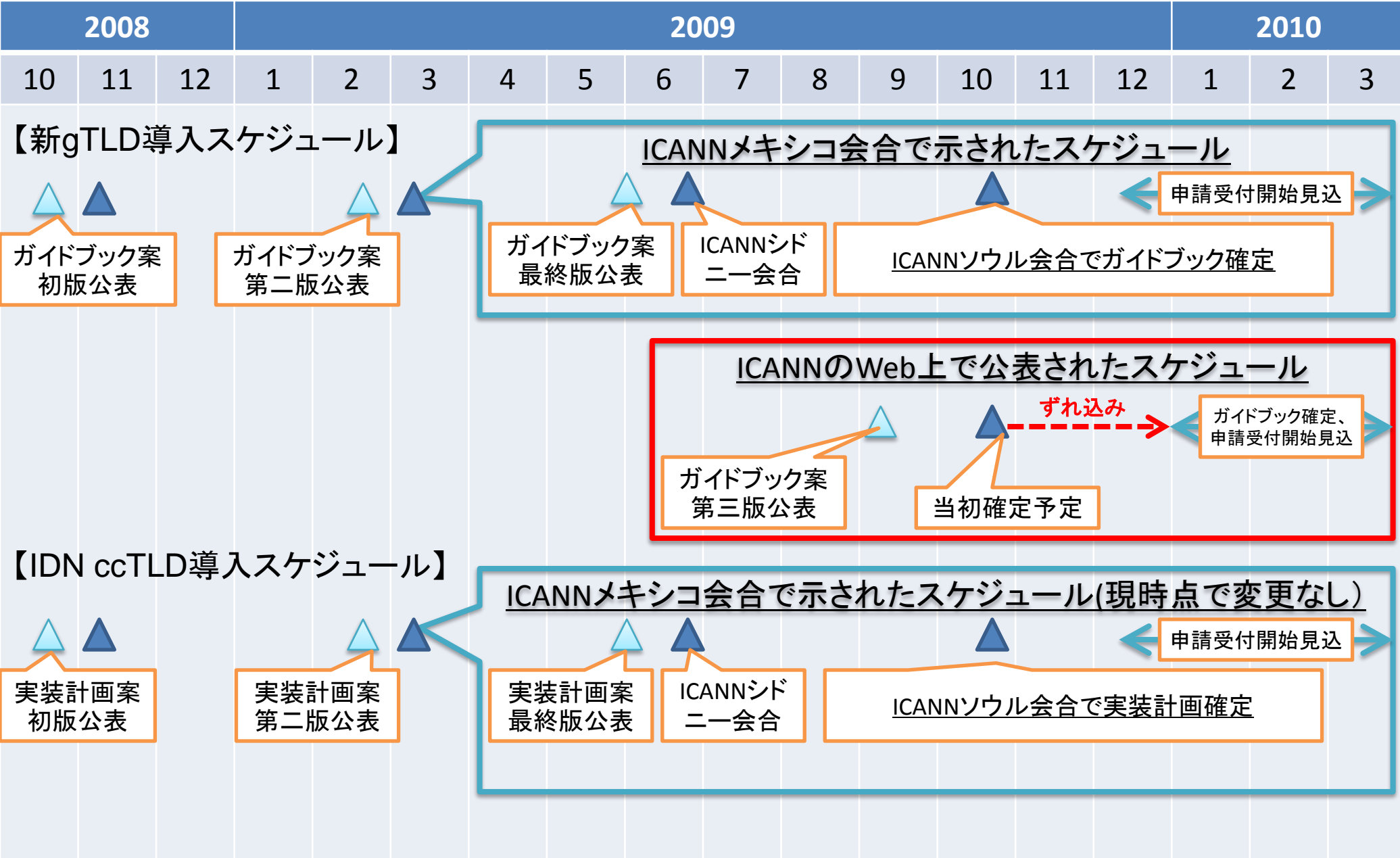


ICANNにおける最新の動向  
 新TLD導入に関するスケジュール(5月7日公表)



# IDN ccTLD実装計画第三版(5/29公表)の主な変更点

## 【ICANNとIDN ccTLD管理者との関係】

DNSの安定性・信頼性を確保する観点から、実装計画第二版において

- ①ICANNとIDN ccTLD事業者が、双方の責務を記述した“Documentation of Responsibility(DoR)”を取り交わすこと

が提案されていたが、これに加えて第三版においては

- ②IDN ccTLDの申請書に、事業者がDNSの安定的運営に努める旨記述する案が追加された

## 【ICANNへの財政的貢献】

新たなTLDの導入・維持に必要な費用として、以下の額を事業者が負担することを提案

- ①申請手数料として\$25,000～\$50,000
- ②年間費用として、収入(登録数×年間料金)の1%(20,000未満)、2%(50,000未満)、3%(50,000以上)

# 新gTLD導入における競争と価格に関する考察(2009年6月)

原題:“Report Of Dennis Carlton Regarding ICANN’s Proposed Mechanism for Introducing New gTLDs”, June 5, 2009(Dennis Carltonシカゴ大学教授作成)

- I. 新gTLDの導入により新たな参入や競争が発生し、価格の低下や革新が促進され、消費者の利益を向上させる。
  - .com等既存TLDとの競争が発生しなかったとしても、新規登録者は新たなレジストリの選択が可能となり、価格の低下、サービスの向上が期待される
  - 参入を制限することにより、このようなメリットまで失われ、消費者の利益にかなうものではない
  - レジストリの変更はドメイン名の変更を意味することから、登録者はレジストリの変更をしにくく、結果、便乗値上につながるという考えもあるが、そのような行動は新たな登録者に対して反競争的にとられ、そのレジストリの評価を下げることから、限定的である
  - また新たなドメインが利用可能になると、例えば.fordや.carによりユーザーが関連する情報も併せてアクセスできるようになることから、ユーザーの利便性を向上させると言える
  - プライスキャップは価格の弾力性を失わせるし、新規参入意欲をそぐため不適切である。プライスキャップによらなくても防衛的登録は適切な仕組みにより排除されるし、レジストリ変更時の便乗値上は市場での評価を得られない
  - 新規参入による便益がコストを上回ることを明らかにしてから、新規参入を認めるべきだという考えは、一般的ではない。特に、新規参入による便益を事前に予測することは困難である
  - 経済学的にも、革新や新製品の導入は消費者の利便を著しく向上させ、規制や導入の遅延は利便を損なうとされている

- II. 新gTLDは、消費者の混乱をもたらし、商標を持つ者の防衛的登録を促すことにより、消費者の利益を損なうという意見も多いが、適切な配慮によりこのような不利益を起こさないことが可能
- 既存の法的フレームワークである反サイバースクワット法やICANNの紛争処理方針に加え、紛争において敗者支払の方式を導入することで、不法な登録をしようとする者を牽制することができる
  - さらに、商標権者のコスト増加よりも、一般的(generic)な名称の導入によるメリットの方が、全体として消費者の利益を向上させる
  - 一方で、近年導入された新TLDにおいて、防衛的登録をしなければならないような状況にはなっていないという事実もあるし、既存のTLDにおいても防衛的登録がすでに行われているという事実もある

出典：<http://www.icann.org/en/topics/new-gtlds/carlton-re-proposed-mechanism-05jun09-en.pdf>